

はい
ママパパライン仙台です

「2020年度のまとめ」

2020年度（R.2年4月～R.3年3月）の「ママパパライン仙台」の報告をいたします。

1. ママパパライン仙台常設事業

◆電話を受けた件数：135件。（母親：110件、父親：6件、その他：1件、無言・一言：18件）

◆総通話時間：4331分。

（平均約37分・無言一言除く）

◆ママパパライン仙台受け手研修：9回。

参加者：延べ90名。

◆ママパパライン仙台広報活動

カード161,000枚を作成し、宮城県内小学校、幼稚園、児童館、市民センター、子育て支援機関及び民間諸施設・団体に配布。

2. 子育て応援講座（兼電話受け手養成講座）

◆12月6日・13日・20日に6講座を実施。

案内チラシ：5,000枚作成、配布。

参加者：延べ136名参加

3. 参加者の声

◆電話をかけてきた方から

- ・自分の子育てが不安でしたが、話を聞いてもらって少し安心しました。
- ・話をするのをちょっと迷ったのですが、話ができ良かったです。
- ・話をしている気が付いたことがありました。明日からもやって行けそうです。
- ・コロナ禍でなかなか直接相談できなくて、モンモンとしていました。じっくり話ができ少し気持ちがスッキリしました。

◆子育て応援講座参加者から

- ・大震災で親を亡くした子どもと家族の支援は、子どもだけでなくその親、養育者、環境を含めた丸ごとの視点が大切であること。支援とはこちら側の考える内容ではなく、受ける側が求めるものに寄り添う、経年変化、一人一人違うものであることが分かりました。
- ・DVについての知識の薄さ、ジェンダーについての認識の甘さ、遠慮などで、DV被害にあっていてその解決の糸口を伝えられなかったことを深く悔やみました。今度は迷わず伝えたい、救われる道があるよって。

・虐待する母を一方向的に攻められない、そこまで追い込んだ社会や繋がりをどう結べばいいのか。一人で頑張らなくていいんだよ!!安心安全の大切さをしみじみ思いました。

・グレーゾーンと言われた親が受け入れることのむずかしさ、本人の生きづらさを、周りが発達障害についての知識を得ることで、視点を1割（発達障害者）の側から見る大切さ心したいと思います。

4. 成果と課題

・子育ての根底に不安や戸惑いを抱えている親たちに向けて周知するカードを16万枚作成し、行政や諸団体の協力の基、配布および配置することができました。

・宮城県PTA連合会及び仙台市PTA協議会、宮城県私立幼稚園連合会より後援を頂き、宮城県内の小学校や幼稚園を通して保護者にカードを届けることができました。

・毎週金曜日の（49日間）のほか、2月には全国8ヶ所のママパパラインと共に「ママパパライン全国キャンペーン」（6日間）、3月には「ママパパライン仙台ささエダイヤル」（5日間）を開設することができました。

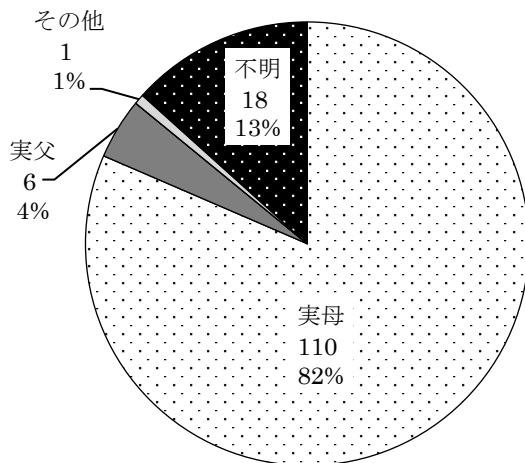
・コロナ禍の中、学校臨時休校、「おうち時間」や夫の在宅ワーク等新しい生活様式により気軽に出かけたりおしゃべりする機会が減り、ストレス解消やイライラした気持ちのはけ口が見つからないママ達が見えてきた。その気持ちに寄り添い受け止める「ママパパライン仙台」の存在意義を強く感じました。

・定期研修は、受け手・支え手・スタッフのモチベーションを高め、傾聴力の研鑽に効果がありました。一方で、内部研修に携わるスーパーバイザーの増員、更なる受け手の向上のため客観性を高めることが受容力アップにつながると考えます。また子育て応援講座は、コロナ禍の中で感染予防対策をしっかりと整えて実施し、受講者からは大変好評で感謝されました。新規受け手獲得に繋がらなかったのが残念でした。

2020年度ママパパライン仙台実施データグラフ

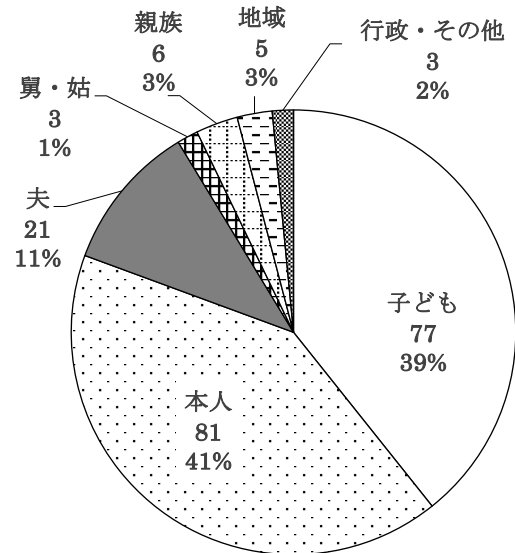
かけてきた人の内訳

(総数:135人)



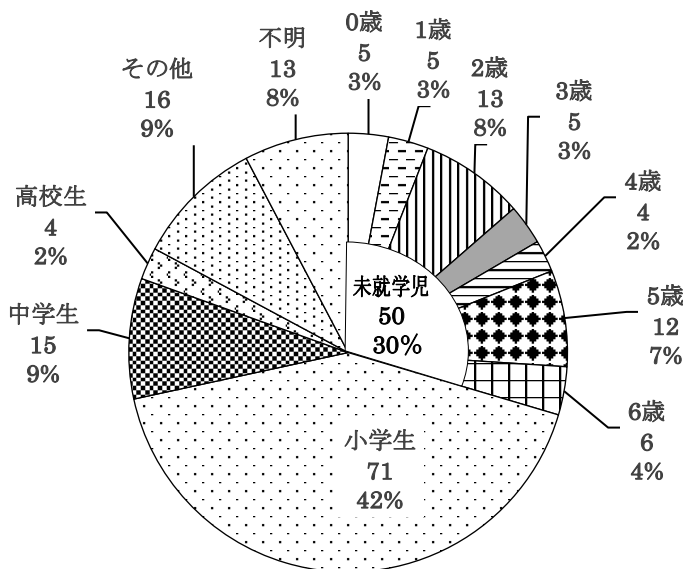
かけてきた人のなやみの内訳

(総数:196件 複数回答有)



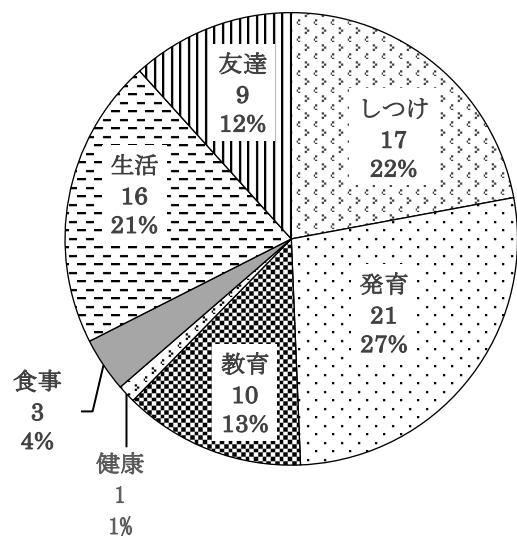
かけてきた人の子どもの年齢

(総数:169人)



子どもについての悩みの内訳

(総数:77件 複数回答有)



169人の子どもの男女の割合

男 : 女 : 不明
85人 : 62人 : 22人